



「ふれあい とちの木まつり」へのご参会ご協力 ありがとうございます

2月17日(土)に行われました「ふれあい とちの木まつり」にご参会ご協力いただきありがとうございました。午前中は3年生以上の子どもたちが各学級で話し合い準備したものを、全校の子どもたちや保護者・地域の皆様にご覧いただきました。どの学級でも張り切ってがんばっている様子が多く見られました。また、自分の役を責任もって最後までやり遂げる中で達成感を感じることができたようです。午後からは、学年毎に保護者の方が準備してくださった各コーナーに子どもたちが参加しました。どこも趣向凝らしたもので、子どもたちは熱中して取り組んでいる様子が見られました。また、校庭には、子どもたちのお小遣いでも買えるようにとお菓子や飲み物、おなかが満たされるようにと具だくさんのとん汁や焼きそばを保護者の方やウイズユースの皆さんが朝から用意していただきました。こちらも大盛況で芝生の上に敷いたブルーシートでおいしく食べていました。子どもたちのため、これまでご準備ご協力いただいた保護者・地域自治会の皆様、ウイズユースの皆様に感謝申し上げます。

しつけ(躾)

本校では、子どもたちが職員室などに入る時「失礼します。〇年〇組の〇〇です。〇〇の用事できました。」出る時は「失礼しました。」などと言って入退室します。この学校に来た時に、言葉が大変しっかり言えていて、「しつけ」が行き届いているなど感じました。

「しつけ」という字は、古い漢字で「身を美しく」と書きます。本当に良い字だと思います。洋裁でも和裁でも、仮縫いをする時、細い糸で型を整えます。この糸を「しつけ糸」と言います。これがいい加減だと型が崩れます。また、「しつけ糸」に太くて丈夫な糸を使うと、出来上がった時、布地に穴が開いてしまって良い製品にならないそうです。細い糸でまんべんなくかけることが大切です。そして、製品が出来上がった時に「しつけ糸」は取ってしまいます。いつまでも製品に付いているわけではありません。

学校や家庭での「躾」も、この「しつけ糸」と同じだと考えます。乳幼児期から今まで、保護者の方があらゆる場面の一つ一つに丁寧に、気を配って「しつけ糸」をかけてきたわけですから。そして、徐々に人としてあらゆることを整えつつあります。この「しつけ糸」をはずすのは、はずしても型が崩れる心配がなくなった時です。それは、保護者や先生の「しつけ糸」があるうちに、子ども自身が自分で本縫いの丈夫な糸を作り出した時です。「しつけ糸」は、子どもが自立するまでの保護者や先生の手助けに過ぎません。

子どもが独り立ちさせるためには、正しい「しつけ糸」をかけた上で、決して「押しつけ」にならないように注意することも大切です。子どもが大人の手を離れて自分の力で、正しく生きていくための下地を作ってあげるのが私たち大人の務めです。

この3月は、今の学年の総まとめと次の学年に向けての準備の時期になります。美しい心のにじみ出ている身の美しさを子どもたちに「躾」けてあげながら、新しい学年を迎えたいと思います。

この1年間、保護者・地域の皆様から学校へのご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。